

科目名	プロダクトデザイン実習 1						年度	2026	
英語科目名	Product Design Course 1						学期	前期	
学科・学年	デザイン科 プロダクトデザイン専攻 2年次	必/選	選	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	氏田治久	教員の実務経験		有	実務経験の職種		プロダクトデザイナー		
【科目の目的】 「新しいカプセルトイ」というテーマで一人1点企画し試作品製作まで行う。実際に商品化できるか?という目線で評価することでリアルなビジネス感覚を身に付ける。									
【科目の概要】 この授業では、クラス＝デザイン制作室という認識をもってより良いデザイン制作に必要な学生間・教員と学生のコミュニケーションと制作プロセスを重視する。授業に出席するだけでなく、制作にあたっては各自で授業の事前準備と事後のフォローを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。									
【到達目標】 ターゲット設定→ターゲット分析→アイデア展開→デザインスケッチ→仕様検討→試作→プレゼンという商品開発の一連作業を実際に体験し、流れを理解する。									
【授業の注意点】 自ら関心をもって情報を取材し発表するだけでなく、他者の発表にしっかり耳を傾けること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。アイデアを練る段階では様々な場所で多くのモノを見るのも重要なことではあるが各段階での途中プレゼンと最終プレゼンは欠席せず自分の言葉と資料、試作で内容を伝えること。提出課題は、期限を厳守すること。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	素材を理解した上の制作の仕方や構造を理解し表現を丁寧にしている	素材を理解した上の制作の仕方や構造を理解し制作している	素材の工夫が必要と考えアイデアを立体表現している	素材の工夫が必要と考えているが、形として不十分	制作工程や素材の理解が不足している				
到達目標 B	課題条件を考え表現内容を工夫し、素材を活かした制作をしている	課題条件に合わせた表現内容を工夫し、丁寧に制作している	課題条件に合わせた表現内容を工夫し、制作している	課題条件に合わせた表現内容を制作しているが、形になっていない	課題条件に合わせた表現内容についての理解が不足している				
到達目標 C	立体構造や素材を理解し、描画材を活かして丁寧に制作している	立体構造や素材を理解し、丁寧に制作している	立体構造や素材を理解して、制作をしている	立体構造や素材を理解はしているが、制作への反映が不足している	立体構造や素材を理解と、制作への反映が不足している				
到達目標 D	制作時間を考えて内容を工夫し、スケジュール管理と課題提出ができる	制作時間と提出期日を考えてスケジュール管理と課題提出ができる	提出期日を考えて締め切りに合わせて課題提出ができる	提出期日を考えて締め切りに合わせて課題提出ができない時がある	提出期日を考えて締め切りに合わせて課題提出ができない				
到達目標 E	主体的に授業参加し、自分の作品を言語化して丁寧に説明できる	休まず授業参加し、自分の作品を言語化して説明することができる	自分の作品を言語化して説明することができる	自分の作品を言語化して説明することができない時がある	自分の作品を言語化して説明することができない				
【教科書】 プレゼン用の資料および模型素材は各自準備の事									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 課題制作、企画内容、レポート、プレゼンテーション等を総合的に評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		プロダクトデザイン実習 1			年度	2026
英語表記		Product Design Course 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス	玩具開発現場の話聞いてもらい商品特性等を理解してもらおう。好きなプロダクトを各自紹介してもらい相互理解とプレゼン練習も兼ねる。	1 ガイダンス	授業の流れを理解	2	
2	校外見学	カプセルトイ専門店を見学し実際に商品が誰にどのように売れているか等観察。その他最新情報であふれた都内の街で企画のヒントを探す。	1 市場調査	テーマに関する情報を現場に行き収集できる	2	
			2 ラフスケッチ	デザイン提案		
3	ブレインストーミング	3~4人ずつのグループにわかれてアイデア出し。プレストの手法を学ぶ	1 ラフスケッチ	デザイン提案	2	
4	アイデア展開	個別にターゲット設定、分析を行いペルソナ手法を学ぶ。	1 ラフスケッチ	デザイン提案	2	
5	アイデア展開	設定したターゲットが喜ぶ商品アイデアを考える	1 アイデア提案	ラフスケッチにて提案を形にすることができる	2	
6	アイデア展開	設定したターゲットが喜ぶ商品アイデアを考える。グループに分かれ各自のアイデアに対してディスカッション。	1 アイデア提案	ラフスケッチにて提案を形にすることができる	2	
7	アイデアプレゼン	ターゲット、企画背景、考えているアイデアを個別に説明する。この時点では仮でも良く完成度は問わない。アイデアの実現性、具体性があるか、それはなぜか?ということ学ぶ	1 アイデア提案	ラフスケッチにて提案を形にすることができる	2	
8	試作品製作	アイデアスケッチ及び試作品製作。スケッチ、試作の製作手法を学ぶ。	1 試作制作	サイズやギミックを理解をし試作を制作することができる	2	
9	試作品製作	アイデアスケッチ及び試作品製作。スケッチ、試作の製作手法を学ぶ。	1 試作制作	サイズやギミックを理解をし試作を制作することができる	2	
10	試作品製作	アイデアスケッチ及び試作品製作。スケッチ、試作の製作手法を学ぶ。	1 試作制作	サイズやギミックを理解をし試作を制作することができる	2	
11	中間プレゼン	: ターゲット、企画背景、アイデアスケッチが入った資料と試作品を個別に説明する。この時点では途中段階で構わない。企画内容を他者に伝えるにはどういう工夫が必要か?を学ぶ。	1 コンセプト制作	誰にどのように提案を行うのかシーンの制作ができる	2	
12	試作品製作・修正	試作品の作りこみ仕上げ。スケッチ、試作の製作手法を学ぶ	1 素材について	紙の種類/プラスチックの加工法の理解	2	
			2 モック制作	アイデアを形にできる力を身に付ける		
13	試作品製作・修正	試作品の作りこみ仕上げ。スケッチ、試作の製作手法を学ぶ	1 モック制作	アイデアを形にできる力を身に付ける	2	
14	プレゼン資料仕上げ	プレゼン用資料の仕上げ	1 モック制作	アイデアを形にできる力を身に付ける	2	
			2 プレゼンボード制作	相手に伝わりやすい内容と写真の構成を身に付ける		
15	最終プレゼン	全員の前一人ずつプレゼンテーションを行う。実際の商品化には何が足りていて何が足りていないかを知りリアルなビジネス感覚を学ぶ。	1 プレゼンテーション	自身の作品を相手に伝えることができる	2	
			2 作品提出	作品を提出することができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等